

脳波検査において周期性放電を呈した症例の検討

◎水谷 天美¹⁾、日比 敏男¹⁾、中島 直美¹⁾、澤村 聖子¹⁾、石郷 景子¹⁾、服部 万奈代¹⁾
大垣市民病院 医療技術部 診療検査科 生理機能検査室¹⁾

【はじめに】

脳波検査における異常波の一つとして、周期性同期性放電（PSD）や周期性一側性てんかん放電（PLEDs）がある。PSDはクロイツフェルト・ヤコブ（CJD）病や亜急性硬化性全脳炎、PLEDsは急性ないし亜急性器質性病変時に出現することが知られている。今回、我々は当院で経験したPSDとPLEDsを呈した症例に関して、放電周期と疾患特異性・予後への影響について検討したので報告する。

【対象と方法】

対象は2012年2月から2019年6月までの期間に当院で脳波検査を施行した症例のうち、明らかな周期性放電が10秒以上にわたって出現した男性19例、女性26例、計45例である。放電周期は連続する5つの周期性放電についてそれぞれ用手的に周期を測定し、その平均を算出した。

【結果】

疾患別の転機・放電周期の結果を表1に示す。PSD群とPLEDs群は、2例以上の症例数があった疾患を抜粋した。

1. 疾患別周期の検討（表1）
2. 疾患別転機の検討（表1）

【考察】

PSDは、CJD病や低酸素脳症、肝性脳症では短周期（1秒前後）、亜急性硬化性全脳炎では長周期（3秒前後）を示すと言われている。我々が経験した症例においても、比較的短周期のPSDが認められた。

低酸素脳症で周期性放電を認める症例は予後不良という報告がある。今回の検討でも、低酸素脳症でPSDを呈した症例の転機は全て死亡退院であった。また、PSD群の死亡率は

54%、PLEDs群の死亡率は33%であり、PSDを呈した症例は予後不良である傾向があった。

PSD群

疾患名	状態	症例数	周期(msec)		
			最短	最長	平均
てんかん	★	1	564		949
	転	3	876	1427	
	退	1	661		
低酸素脳症	★	4	956	1881	1077
代謝性脳症	転	4	529	1053	773
クロイツフェルト・ヤコブ病	★	3	925	1462	1111

PLEDs群

てんかん	★	1	1323		1629
	転	9	620	1728	
	退	2	1858	4102	
ウイルス性脳炎	転	2	967	1319	1139
	入	1	1132		

PSD・PLEDs群

てんかん	転	1	PSD : 931	
			PLEDs : 927	

（★：死亡退院、転：他院転院、退：自宅退院、入：現在も入院中）

【結語】

今回、当院で経験したPSDとPLEDsを呈した症例に関して、放電周期と疾患特異性・予後への影響について検討した。

PSDは疾患により周期が異なり、診断に有用であると考えられた。

PSD群では予後不良の傾向があり、意識障害を呈した患者の脳波検査は、予後を推定する上で非常に有用であると考えられた。

【連絡先】0584-81-3341（内線1271）